

上新電機オーディオ試聴会 (2018.12.16)

—ソウルノート D-2 試聴会—

1. はじめに

上新電機日本橋1番館で開催されたソウルノートのDAコンバーターD-2の試聴会に行ってきました。ESSのDACチップESS 9038PROを4個使用し、高精度内部クロックを備えたということで興味がありました。

<https://av.watch.impress.co.jp/docs/news/1127469.html>

2. 使用機器

スピーカーはPMCのtwenty5-26、アンプはソウルノートのA-1、送り出しにはDELAのSSDタイプのNASが使用され、DACはD-2の他にD1にノンオーバーサンプリング機能を追加したD-1Nが急遽追加されました。その他にCDプレイヤーのC-1も準備されていました。音源は、原則CDからリッピングしたものが使用され、一部ハイレゾ音源も追加されました。



当日のセッティング



当日のセッティング

3. 試聴会の経過

最初に、D-2 の概要説明があり、D-2 にノンオーバーサンプリング機能を追加した経過と既発売の D-1 にもノンオーバーサンプリング機能を追加した D-1N も追加されたとの説明がありました。通常は 8 倍オーバーサンプリングなどで設計するのですが、ある時オーバーサンプリングなしの音を聴き、こちらの方が生々しい音がすることが分ったことから設計が始まったとのこと。試聴は、ノンオーバーサンプリングと 8 倍オーバーサンプリングが切り替えて行われました。

最初に、D-1N を使用して、電子音楽みたいなものとアメリカンポップスがかかりましたが、透明感があって立ち上がりの良い音がしました。

ここで、ノンオーバーサンプリングと 8 倍オーバーサンプリングの切り替え実験としてビートルズで交互に比較していきました。ノンオーバーサンプリングではストレートな生々しさがでていましたが、8 倍オーバーサンプリングでは少し音が鈍って大人しく聴こえる感じです。次に、ロックのような音楽での比較でしたが、やはりノンオーバーサンプリングの方がストレートな印象です。

ここでクラシックではどうかということでドウダメル／ロス響の 96KHz24bit のハイレゾ音源の再生がありましたが、ノンオーバーサンプリングではやはりストレートで立ち上がりが良い音がしていましたが、反面若干肌理が粗くなり、弦などは多少固く聴こえ、8 倍オーバーサンプリングでは滑らかに聴こえました。

次のジャズでもノンオーバーサンプリングの方がストレートで生々しい感じは上記と同様でした。

ここで DAC を D-2 に替え、同じジャズの曲と先ほどの幻想がかかりましたが、D-1N と比べると明らかにワンランク上の音になり、幻想ではこれならクラシックも許容範囲に入ってくると言えます。

この後、ビートルズで、ノンオーバーサンプリングと 8 倍オーバーサンプリングの比

較、アナログフィルターの効果、D-2の天板の上に重しを置く効果などの確認が行われ、女性ボーカル2曲がかかった時点で中座しました。ソウルノートでは音に開放感が出るということで天板は締め付けず軽く浮かしておく程度にしているとのことです。

4. まとめ

D2がD-1Nより上位機種ということでの実力の違い、ノンオーバーサンプリングと8倍オーバーサンプリングの音の違いなどは分かりましたが、クラシックの再生がほとんどなかったことから、クラシックではノンオーバーサンプリングが本当に良いのかどうかは確信が持てません。

同社の資料によれば、ノンオーバーサンプリングは静特性では劣るが、動特性のメリットを強調しています。即ち、オーバーサンプリングでは、演算によって生じるプリエコー、ポストエコーが付いてきますが、ノンオーバーサンプリングではそれがないので、インパルス特性には有利で、それ故ストレートで生々しい音がするという主張です。それ故、そういった動特性が要求されることが少ないジャンルではどうかということが、解説者の個人趣味に合わせた選曲でしたので、的確な判断ができませんでした。

以上